

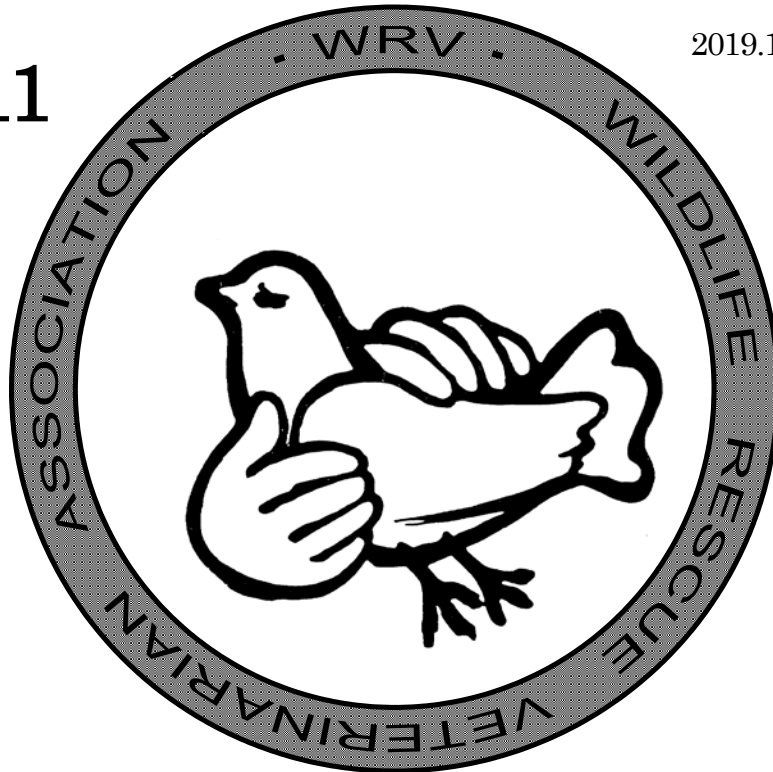
# WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.111

2019.12.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

## No.111 目次

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 施設紹介ー秋田県鳥獣保護センター             | 2-3   |
| 施設紹介ー盛岡市動物公園                 | 4-5   |
| チョウゲンボウ幼鳥の長期保護からの野生復帰        | 6-9   |
| 金坂 裕先生が「令和元年文化の日千葉県功労者表彰」を受賞 | 9     |
| 皆川康雄先生が「神奈川県自然保護功労者表彰」を受賞    | 9     |
| 野生動物救護獣医師協会 講習会のご案内          | 10    |
| 書籍紹介ー「応用動物看護学3」              | 11    |
| 寄付のお礼                        | 11    |
| 事務局日誌                        | 11-12 |

# 秋田県鳥獣保護センター

秋田県自然保護課鳥獣保護管理班  
秋田県秋田市山王4-1-1

## 1. 概要

秋田県鳥獣保護センターは、昭和48年に秋田県で開催された第27回全国野鳥保護の集いを契機に、県中央部に位置する南秋田郡五城目町に開設されました。

鳥獣保護センターを含む約50haの敷地が環境と文化のむらとして整備されており、傷病鳥獣保護等の鳥獣保護思想の普及啓発のほか、県民が自然とのふれあい体験を通じて自然に対する理解を深めることができる場として、一体的に管理・運営しています。

また、一帯は、国の野鳥の森及び県指定の鳥獣保護区にも指定されており、様々な野鳥を観察することができ、小中学校等の環境学習や総合学習での活用も可能となっています。



鳥獣保護センター（自然ふれあいセンター）



鳥獣保護舎

## 2. 業務内容

- 傷病野生鳥獣の収容・救護
- 鳥獣保護センター及び環境と文化のむら管理
- 来園者の案内、観察会及び講習会の開催支援

### 【傷病鳥獣の収容状況】

| 区分 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 鳥類 | 227 | 251 | 211 | 216 | 222 | 253 | 197 | 166 | 162 | 222 | 152 | 120 |
| 獣類 | 41  | 47  | 49  | 33  | 41  | 40  | 31  | 42  | 22  | 12  | 27  | 6   |
| 計  | 268 | 298 | 260 | 249 | 263 | 293 | 228 | 208 | 184 | 234 | 179 | 126 |

### 【傷病鳥獣救護への対応方針】（第12次秋田県鳥獣保護管理事業計画抜粋）

- 傷病鳥獣の野生復帰、環境のモニタリング及び鳥獣保護思想の普及啓発に資することを目的とする。
- 農林水産業被害の発生原因となっている鳥獣（カラス類、ツキノワグマ、ノウサギ、ニホンザル、イタチ、ハクビシン、タヌキ、キツネ、アナグマ、ニホンジカ、イノシシ等）については、治癒後の放野に対し利害関係者等の合意が得られないことから、原則として保護・収容しない。
- 外来生物法で特定外来生物に指定されている鳥獣については、原則として保護・収容しない。
- ペットや家畜については、原則として保護・収容しない。
- ヒナ及び出生直後の幼鳥獣を傷病鳥獣と誤認して救護しないよう、県民に対して周知徹底を図る。

### 3. 鳥獣保護センターの運営体制

所 長：生活環境部自然保護課長が兼務

専 任：鳥獣保護センター業務受託者 職員2名、県非常勤職員1名

兼 務：生活環境部自然保護課 6名、中央家畜保健衛生所 1名

### 4. 主要施設

#### 〈鳥獣保護センター〉

- ・ 傷病鳥獣救護・野生化訓練棟 450 m<sup>2</sup>
- ・ 管理舎（1棟） 72 m<sup>2</sup>
- ・ 鳥獣保護舎（1棟） 60 m<sup>2</sup>
- ・ 人工池 25,000 m<sup>2</sup>
- ・ カモシカ園 50,000 m<sup>2</sup>（※現在は休止）

#### 〈環境と文化のむら〉

- ・ 自然ふれあいセンター 622 m<sup>2</sup>
- ・ 愛鳥山荘 320 m<sup>2</sup>
- ・ 野鳥観察小屋 8 m<sup>2</sup>
- ・ 観察路 7,000 m<sup>2</sup> など

### 【沿革】

|       |    |                                |
|-------|----|--------------------------------|
| 昭和48年 | 5月 | 秋田県鳥獣保護センター完成・開所               |
|       |    | 「五城目野鳥の森」の指定及び第27回全国野鳥保護の集いの開催 |
| 平成7年  | 6月 | 環境と文化のむらオープン                   |
| 平成9年  | 5月 | 愛鳥山荘改築オープン                     |
| 平成21年 | 4月 | 秋田県鳥獣保護センター 業務委託を導入            |
|       |    | 環境と文化のむら 指定管理者制度を導入            |



# 盛岡市動物公園

公益財団法人 盛岡市動物公園公社  
囑託獣医師 松原 ゆき

## ■ 盛岡市動物公園について

盛岡市動物公園は、雄大な岩手山を望む盛岡市の中心部から車で10分程の小高い山の上にあります。平成元年4月に開園し、今年で開園30周年を迎えました。園内には日本生態園、ビクトリアコーナー、アフリカ園など5つのエリアがあり、現在約100種700点の動物を飼育展示しています。カナダカワウソのカエデは、全国各地の動物園水族館のカワウソが参加する人気投票イベントで上位を記録した人気者です。

当園では近年、開園以来改修していない獣舎などの施設の老朽化が目立つようになりましたが、施設改修などの財源確保が難しい状況にありました。そこで、民間と連携して設計施工することにより、今後段階的に改修を進め、令和4年度のリニューアルオープンを目指しています。



盛岡市動物公園正門

## ■ 動物病院の紹介

盛岡市動物公園内にある動物病院は、動物園の入り口から一番奥にある非公開の施設です。当園には園長を含め3人の獣医師がいますが、動物病院には、常時1~2人の獣医師と動物病院専従の職員1人がおり、動物たちの病気やケガの治療や、入院動物の世話を行っています。病院内には診療室のほかに、入院室、解剖室、検査室があります。



診療室



ニホンイヌワシ（飼育展示個体）の採血



## ■ 幼傷病野生鳥獣の救護と課題について

岩手県は豊かな自然環境に恵まれ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンリス、ヤマネなど多くの哺乳類が生息し、冬にはハクチョウが街の中に飛来します。県では、岩手県鳥獣保護センターを幼傷病野生鳥獣の救護活動の拠点とし、指定を受けた一般開業獣医師も一次救護を行っています。また、当園も県からの委託を受けて、幼傷病野生鳥獣の診療を行っています。平成26年（2014年）以降は救護対象外とする種（有害性の高い鳥獣）が見直され、該当種が増えたことから、救護件数は減少傾向にあります。

当園では、救護される哺乳類の割合が4割程度と高いのが特徴です。幼獣ではニホンカモシカとトウホクノウサギが多く（誤認保護）、ニホンリスやムササビ、ヤマネなどもあります。幼獣の場合は人工哺育を行っています。鳥類ではカモ類や猛禽類の救護が多く、衰弱や骨折などの場合には、手術や投薬、補液などの処置を行っています。

課題としては、動物福祉に配慮した終生飼育個体の管理、リハビリから野生復帰までも考慮した受け入れ体制を作る必要があります。高病原性鳥インフルエンザの侵入阻止や、ニホンカモシカのパラポックスウイルス感染症などの感染症対策の強化も課題です。

さらに、幼獣救護の場合、誤認救護や巣を壊してしまったという理由で持ち込まれる事例がほとんどです。人工哺育で成獣にまで育てることはできても、野生復帰が難しいのが現状です。野生動物の死は、次の生に繋がるという自然の仕組みを理解していただくように努力していますが、私自身、過去に衰弱したメジロを保護した子供を泣かせてしまった苦い経験もあります。“助けてあげたい”という優しい気持ちを尊重しながら、厳しい自然環境の中で自活する野生動物との正しい付き合い方について普及啓発していきたいと思っています。

### 近年10年間の保護数（哺乳類）

|      | カモシカ | ノウサギ* | リス | アナグマ | キツネ | タヌキ | テン | イタチ | ヤマネ | ムササビ | モモンガ* |
|------|------|-------|----|------|-----|-----|----|-----|-----|------|-------|
| 2009 | 6    |       |    | 2    |     | 1   |    |     | 1   |      |       |
| 2010 | 6    | 1     | 1  |      | 1   |     |    | 2   |     |      | 1     |
| 2011 | 2    |       | 1  |      |     |     |    |     |     |      |       |
| 2012 | 4    |       |    |      |     | 1   | 1  |     |     |      |       |
| 2013 | 3    | 2     | 1  |      | 2   |     | 1  |     |     |      | 1     |
| 2014 | 6    | 1     |    |      |     | 1   |    |     |     |      |       |
| 2015 | 2    | 1     | 1  | 2    | 1   |     | 1  |     |     |      |       |
| 2016 |      |       |    |      |     |     |    |     |     |      | 1     |
| 2017 | 3    |       |    |      |     |     |    | 1   |     |      |       |
| 2018 |      |       |    |      |     |     |    |     | 1   |      |       |
| 合計   | 32   | 5     | 4  | 4    | 4   | 3   | 3  | 3   | 2   | 2    | 1     |



人工哺育で育ったニホンリス

### 開園以来の保護数

|      | 哺乳類 | 鳥類 |      | 哺乳類 | 鳥類 |      | 哺乳類 | 鳥類 |      | 哺乳類 | 鳥類  |
|------|-----|----|------|-----|----|------|-----|----|------|-----|-----|
| —    | —   | —  | 1991 | 10  | 16 | 2001 | 18  | 39 | 2011 | 4   | 7   |
| —    | —   | —  | 1992 | 11  | 17 | 2002 | 16  | 11 | 2012 | 6   | 10  |
| —    | —   | —  | 1993 | 6   | 10 | 2003 | 14  | 17 | 2013 | 20  | 12  |
| —    | —   | —  | 1994 | 8   | 17 | 2004 | 12  | 13 | 2014 | 8   | 1   |
| —    | —   | —  | 1995 | 6   | 8  | 2005 | 21  | 11 | 2015 | 13  | 9   |
| —    | —   | —  | 1996 | 12  | 32 | 2006 | 23  | 28 | 2016 | 1   | 9   |
| —    | —   | —  | 1997 | 13  | 19 | 2007 | 17  | 29 | 2017 | 4   | 4   |
| 1988 | 6   | 5  | 1998 | 20  | 24 | 2008 | 19  | 13 | 2018 | 1   | 3   |
| 1989 | 13  | 16 | 1999 | 17  | 27 | 2009 | 11  | 4  | 2019 | 3   | 3   |
| 1990 | 7   | 29 | 2000 | 11  | 12 | 2010 | 14  | 1  | 合計   | 365 | 456 |

※2019年は11月現在/合計は1988～2019年11月現在での保護数

# チョウゲンボウ幼鳥の長期保護からの野生復帰

放鳥's 境 貴 昭

放鳥's は、傷病野生鳥獣救護のための小さなボランティアグループです。救護された野生鳥獣の放野後を追跡することで、その治療・リハビリの結果と効果を明らかにし、今後の救護の技術発展につなげることを目的としています。

## 【リハビリの受入れ】

2019年3月13日、1羽のチョウゲンボウ幼鳥のリハビリ依頼がありました。2018年6月13日に大阪で保護され、当時の診断は衝突または衰弱であり、顕著な外傷等は発見されませんでした。しかし、入院中に初列風切羽等を破損し、その後の換羽でも新しい羽根が伸長途中で抜けたり、容易に破損したりを繰り返し、最終的に換羽不全と診断され、受入れ要請がありました。

## 【受入れ時の状態】

受入れ時の状態は、右翼初列風切羽はすべて根本付近からの重い破損、特に外側（5～10番）はひどく、羽軸の付け根あたりから破損していました（写真1）。左翼初列風切羽は、ほぼすべての羽で先端破損がありました。その他に目立った異常は無く、換羽すれば問題なく飛べると推測される状態でした。



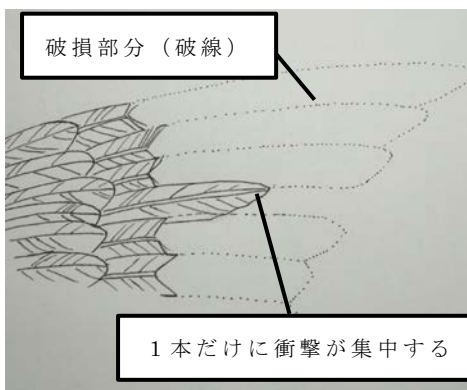
（写真1）当初の破損右翼

## 【換羽】

5月末、換羽の季節がきました。

余談ですが、ときどき破損した羽根だけが正常の換羽季節とは関係なく生え変わるという話を聞くことがあります。個人的にはそのように見える事例があったという程度に留めておき、それを期待したりリハビリ計画を立てるべきではないと考えています。また、「抜けばすぐ生えて来るよ！」という指示もよく耳にしますが、換羽と関係のない季節に抜くと次の換羽季節まで生えてこない例もあります。被食者側である種の場合は、防御術のひとつとして抜けやすい構造となっているため生えてくるのかもしれませんが、猛禽類に対しては得策ではないと感じています。

話を戻しますが、5月末からの換羽では、問題は見られず順調に進行していきました。しかし個体特性として、よくバタつくように感じられ、それが原因で入院中も羽を当て、換羽を妨げていたのではないかと推測しています。



また、羽は広範囲を根本近くから破損してしまうと、1～2本ずつ自然換羽するとき、周辺の羽根のフォローが無い場合、衝撃が集中し、簡単に破損しています（左図）。特に片翼だった場合は、飛行時のアンバランスが原因でさらに維持が難しくなり、羽破損の無限ループに入ってしまいます。これを打開するためには、個体特性をしっかりと見極め、工夫した飼育が大切になります。今回は係留飼育を行い、太陽光がしっかりと届く窓側まで自由に動けるようにしました。太陽光が入ってくる場所

に届かないと、そこに行きたい欲求からバタつくため、この欲求を満たせるよう心がけました。

## 【課題】

当該チョウゲンボウは、2019年9月21日に放鳥しましたが、保護日から考えると約1年3ヶ月という長期の保護となりました。当グループではこれまでに、成鳥や雛鳥の放鳥後の生存、および正常と思しき行動を確認できた経験があります。しかし、巣立ち雛の長期保護後の放鳥においては、それができていません。

過去にフクロウとチョウゲンボウの同等条件の放鳥後追跡を行いましたがいずれも48時間以内に、カラスが原因と推定される死亡（状況推測含む）が確認されました。

当時の各リハビリ方法は以下のとおりです。

### フクロウ

平成26年7月、幼鳥のときに衰弱で保護され、動物病院で羽の破損を繰り返し、放鳥に至らず。平成27年5月、当グループが依頼を受け、換羽を完了し、ケージで飛翔と狩猟訓練の後、翌年3月中旬に放鳥。夕方に放鳥し、翌朝に死亡を確認。

### チョウゲンボウ

平成28年7月末、巣立ち雛のときに衝突（？）にて保護。鷹狩り技術の一部を利用したフリーフライトおよびルアー（疑似餌）パス、それに加えてカラス警戒訓練をしてから放鳥。

放鳥直後、オオタカに追撃されるも回避。その翌日の夕方に、カラスに追いかけていたそれらしき鳥の目撃情報があったが発見に至らず。数日後、発信機により受信するも、全く移動が確認されないことで、発信機落下か死亡の可能性が高まる。受信地が宮内庁管理の古墳内であったため、立ち入ることができず、約1週間後に宮内庁職員が捜索し、発信機のついた羽とその他初列風切や尾羽を複数本回収。いずれも根本から抜かれていた。ただし、猛禽に捕食されたような体羽の散らばりや、遺体は発見されなかった。こうした状況から考えて、生存している可能性は低いと言わざるを得なかった。

このようにして、活餌やバードトレーニング、カラス警戒訓練を行ってから放鳥してきましたが、良い結果は残せませんでした。

## 【放鳥季節】

今回、特に重要視したのは放鳥する季節です。

過去に問題となった最たるものが、天敵（カラス）でした。これまでは生存の厳しい真冬の終わりを待ち、3月と5月に放鳥してきました。しかし、これらの季節はカラスの繁殖期であり、一番警戒心が高くなっていたはずで、そこで、今回は9月末を放鳥季節として選択しました。理由は、以下の3つです。

- ① カラスの繁殖期警戒が解かれている。
- ② 鳥の分散期および渡りの季節であり、新規個体が許容されやすい。
- ③ 餌となる昆虫が多くいる。

この季節に間に合わせるために、換羽の完了を待たず、しっかりと餌を与えながらラインフライト（写真2）により飛翔能力を上げるとともに、生きた昆虫やヤモリを与えるなどの採餌トレーニングを行いました。

## 【放鳥】

保護時の月齢的に、分散前であったことはわかっていましたが、保護地での放鳥を選択しました。放鳥1週間前から、放鳥場所の環境に慣らすトレーニングを行いました。

いよいよ放鳥日。当日も現地に慣らすため約2時間前から景色を見せ、いざ放鳥となったときにチョウゲンボウが何度も偵察に現れるようになりました。30分程様子を見て放鳥しました。当初しばらくの間は放鳥場所で動かず。目の前の木に飛び移り、再度動かず。その後、真横を人が通ったことがきっかけとなり、一気に飛び立ちました。

一本目のフライトは徐々に風に乗りに上がり、何度も旋回し、15階建てのマンションの上に。その後は、マンション上空を何度も旋回し、マンション最上階の窓際で就寝しました。

翌朝は、夜明け時刻にはすでに移動しており、そこから約800m東にいった場所に位置していました。この日はそこから電波の発信場所が何度も移動し、姿を確認できたときにはすでに夕方になっていました。移動した先は高層ビルの合間で、ここを縫うように飛ぶ姿を発見できました。そして、その翌日（放鳥3日目）には、大きく移動し、8km離れたさらに都会の駅周辺を就寝場所としました。ここから4日間、移動がない期間があり、最悪のパターンをイメージし始めていました。その翌日（放鳥8日目）、電波が消え、私たちは捜索と並行して、周辺で遺体回収がなかったかの確認を始めました。

諦めかけたその矢先（放鳥9日目）、放鳥場所付近でしっかりと受信があり、戻っていたことがわかりました。受信はあるものの、なかなか姿を確認することができませんでしたが、夕暮れ間近、受信機に従い、ふと下を見ると地面に立っている当該個体を発見しました（写真3）。

## 【再捕獲の状態】

再捕獲時の体重（136g）は、放鳥前（216g）に対し約63%でした。63%と聞くとさほど問題ないように思われるかもしれませんが、適正体重60kgの人が、38kg弱まで体重が減ったと考えると恐ろしく感じます。当然ながらキールスコアは「1」。人間と違い、鳥の場合はその性質から、短期間で胸筋の付き具合が変化します。キールスコアが低いということは、翼を上下させる各筋肉が小さくなったことになり、筋力低下に直結します。そのため今回のケースでも、しっかりと飛翔できるための限界の状況にあったものと思われます。

再捕獲の翌日、ペリットを吐き出しました。ペリットを水に溶くと、昆虫のキチン質と思われるものが見つかり、専門家によってキマダラカメムシとアオカメムシの仲間であることがわかりました（写真4）。



（写真2）ラインフライト



（写真3）再捕獲時



（写真4）ペリット



## 【結論】

今回、衰弱により回収できたことは、傷病鳥獣救護事業にとって大きな意味を持つものと感じています。その最たる理由は、当個体がカラス等の天敵に襲われなかったことです。これまでの放鳥で一番大きな死亡原因を避けることができたことは、今後の放鳥後の生存率の向上を図るにあたり、大いなる前進と言えます。そこで、分散前幼鳥の長期保護後の放鳥事例において、行ったトレーニングと行わなかったトレーニングを比較分析し、天敵を避けることができた一番の要因は、「放鳥した季節」ではないかと考えています。

ただし、新たな問題も現れました。昆虫の捕食訓練をしたにもかかわらず、十分量の餌を捕まえるには至らなかったということです。これは、昆虫が多い季節であっても起こってしまいました。この原因が、餌場としての認識が持てなかったためか、そこに意識が向けられるほど落ち着ける場所を見つけることができなかつたためか、それとも他の原因かを探り、今後のリハビリに反映させる必要があります。これらの事実をしっかりと分析し、当個体の再放鳥、及び新たな救護個体の放鳥後生存率向上に尽力していきたいと思います。

## 【追記】

近年、保護された猛禽類を調教することで野生復帰を目指すことが注目されています。当グループでも、その技術を利用することがあります。しかしながら、むやみやたらと調教している例も見受けられます。衰弱や軽度の衝突による一時的な保護で済むはずの猛禽類を、「猛禽はアスリートなので保護期間に衰えた筋力を補う必要がある」などといった理由で、長期保護化してしまった例も聞いています。これまで野生復帰後の追跡を少なからず行ってきましたが、野生復帰後生存率には、幼鳥であれば社会化期、渡り個体であれば季節、留鳥であればなわばりの保持等、多くの条件が密接に関わっていることがよくわかります。救護ではどうしても保護期間が長期化してしまう症例や、適当な季節を待たなければならない例もあります。しかし、そうでない個体については、倫理的にも、そしてなにより野生復帰後生存率を高めるためにも早期に放鳥されることをお勧めします。

### ●金坂 裕先生が「令和元年文化の日千葉県功労者表彰」を受賞

1月3日(祝)に、千葉県議会議場にて開催されました「令和元年文化の日千葉県功労者表彰」の式典におきまして、金坂 裕先生が、「環境功労」部門において千葉県知事より表彰を受けられました。

金坂先生は、千葉県傷病野生鳥獣救護事業の指定獣医師として、長年に渡り県内の傷病鳥獣の救護活動に多大なる実績を残され、同時に県内における中心的な役割を果たしてこられました。一方で、同分野における専門的な教育指導活動を全国的に展開され、WRVの諸活動について、今でも様々な形でご協力いただいております。

この度の先生のご受賞に対し、心よりお祝い致しますとともに、今後のご指導を、改めてお願い申し上げます。

### ●皆川康雄先生が「神奈川県自然保護功労者表彰」を受賞

1月19日(火)に神奈川県庁にて、本協会の神奈川県支部長を務めていただいている皆川康雄先生が、神奈川県知事より「自然保護功労者表彰」を受賞されました。

皆川先生は、既にご存じの通り、神奈川県との連携のもと長年に渡り「野生動物リハビリテーター」の養成活動を展開され、同時に神奈川県鳥獣保護管理員として活動されるとともに、丹沢大山の保全再生活動にも尽力されるなど、大きな功績を残してこられました。

この度の先生のご受賞をお祝い申し上げますとともに、今後とも当協会の諸事業の推進に向け、改めてご協力をお願いする次第です。



## 野生動物救護獣医師協会講習会のご案内



特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会 東京都支部  
共 催 : 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

会 場 : 東京環境工科専門学校・203-204教室

〒130-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7 <http://tce.ac.jp>

最寄り駅 : JR 総武線快速・総武線「錦糸町」駅・南口から徒歩3分  
東京メトロ半蔵門線「錦糸町」駅・1番出口から徒歩3分

日 時 : 2020年3月7日(土) (受付 : 13:30~13:55)

- 14:00~14:10 開会あいさつ
- 14:10~15:25 講演「身近な猛禽類の救護および鷹匠の技術を用いたリハビリテーション」  
川崎市夢見ヶ崎動物公園 獣医師 石川 真理子
- 15:35~16:35 講演「アライグマ根絶に向けて～一開業獣医師の取り組み～」  
(NPO)野生動物救護獣医師協会 理事  
高坂どうぶつ病院 院長 小山 正人
- 16:35~16:45 事務連絡 等
- 16:45 閉会あいさつ
- 17:30~19:30 懇親会(事前申込者 等) ※近所の別会場になります

\*申込み方法 申込み用紙に必要事項を記入の上、**FAXまたはメール**にてご送信ください。  
同時に、郵便振込にて参加費(懇親会参加の場合は合計額)をお振込ください。参加費の  
振込確認をもって、参加申し込み受付とさせていただきます。

振込口座 00130-8-607137 口座名義 野生動物救護獣医師協会

\*定員 70名

\*参加費 東京都協力病院(スタッフ含む)、学 生 無 料  
WRV 正会員、ボランティア会員、東京都鳥獣保護管理員 2,000 円(当日入会でも OK)  
会員外、その他 3,000 円  
※懇親会参加の場合は、別途 2,000 円がかかります。(※協力病院および学生は無料)  
※当日入会いただく場合には、会員価格とさせていただきます。

\*申込期限 2月28日(金)(定員になり次第締め切ります)

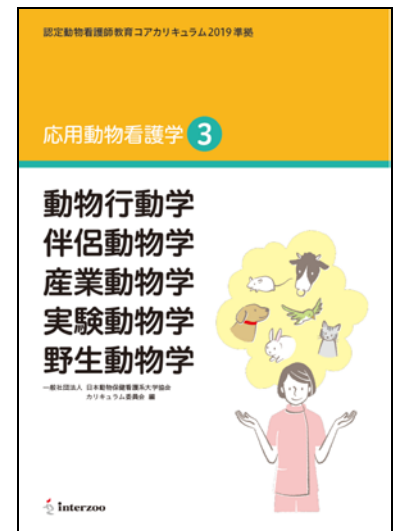
\*問い合わせ先 (NPO) 野生動物救護獣医師協会 事務局 箕 輪  
TEL 042-529-1279 FAX 042-526-2556  
e-mail : tm13249oz@yahoo.co.jp

# 「応用動物看護学 3」 (改訂新版)

本書は、2014年に発行された第1版を改訂し、「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」に準拠した形でまとめられた「応用動物看護学」のうち、3巻にあたるものです。右の表紙からも伺えますように、3巻には動物行動学、伴侶動物学、産業動物学、実験動物学、そして野生動物学の分野に関する内容が収められています。ちなみに1巻には動物看護学概論、人間動物関係学、動物福祉・倫理の分野が、また2巻には公衆衛生学と動物医療関連法規に関する内容が収録されています。今回はこの3巻にある野生動物学の項について、WRVの研究部長である梶ヶ谷博先生と、帝京科学大学の加隈良枝先生、そして梶ヶ谷先生からの依頼により私が執筆を担当致しました。

時あたかも、動物看護師資格がいよいよ「愛玩動物看護師」の名称で国家資格となること決定したばかりということもあり、本書の内容についても、これから現場での活躍を目指す方々にとって、それぞれの分野で直接役立つような実践的、かつ体裁や文章表現等も含め大変わかりやすい内容になっております。

また、568ページという厚さの割には、本体価格が3,500円という値段設定になっているため、比較的求めやすいことと思われますので、それぞれの分野に少しでもご興味のある方には、是非一度手に取っていただくことをお勧めいたします。  
(WRV 事務局長 箕輪 多津男)



「応用動物看護学 3」 (編者) 一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会  
 本体価格 : 3,500円 (税別) サイズ : B 5 版 ページ : 568ページ  
 発行日 : 2019年10月15日 出版社 : (株) インターズー  
 ◆問い合わせ先◆ (株) インターズー 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8 元代々木サザビル2F  
 TEL 03-6407-9690 (編集部) 受注専用) 0120-80-1906 <http://finterzoo.online/>

## 【事務局より寄付のお礼】 寄付ご協力者(敬称略) (令和元年9月1日から令和元年11月30日)

○寄付金 (一般) 2019.10.5 2019 動物感謝デー in JAPAN (募金箱) 120 円  
 ○神奈川支部寄付金 2019.9.22 動物愛護フェアかわさき 3,450 円

## 事務局日誌 2019.9.14~2019.12.14

=== 9月 ===

|  |                  |
|--|------------------|
| 14~16 : 日本鳥学会 2019 年度大会 (帝京科学大学)                             | 出席 : 小山、皆川、箕輪、齊藤 |
| 15~18 : 日本哺乳類学会 2019 年度大会 (中央大学)                             | 出席 : 羽山、加藤       |
| 21 : 第 29 回・野学校 (小山台会館)                                      | 出席 : 箕輪          |
| 22 : アニマルグフェスタ・公開シンポ「現場から考える 人と動物との関係~動物の福祉向上をめざして~」(帝京科学大学) | 講師 : 箕輪          |
| 22 : 動物愛護フェアかわさき (川崎市動物愛護センター・ANIMAMALL) [神奈川支部]             | 対応 : 皆川          |
| 25 : 第 21 回日本臨床獣医学フォーラム (ホテルニューオータニ)                         | 対応 : 新妻          |
| 25 : WRV ニュースレターNo.110 発行                                    | 対応 : 小松、箕輪、齊藤    |
| 25 : テレビ朝日「スーパーJチャンネル」: 都会に侵入するハクビシンの実態を紹介                   | 出演 : 皆川          |
| 26 : 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン 3 団体合同報告会 ((公財)日本鳥類保護連盟・会議室)         | 出席 : 箕輪          |
| 26 : 第 4 回練馬西青色申告会 理事会 (練馬西青色申告会事務所)                         | 出席 : 新妻、町田       |
| 27 : 神奈川東ロータリークラブ (ホテルキャメロットジャパン) 講演「急増!人を恐れなくなった野生動物たち」     | 講師 : 皆川          |

- 29: かながわボランティア基金 21 幹事会 (県民活動サポートセンター) [神奈川支部] 出席: 皆川  
 30: 東京都外来鳥獣防除対策検討委員会 作業部会 (東京都庁) 出席: 加藤

=== 10月 ===

- 05: 2019 動物感謝デー in JAPAN (駒沢オリンピック公園) 対応: 新妻、中川、須田、箕輪、齊藤  
 05: 麻生区ふれあい公園 (王禅寺ふるさと公園) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 07~08: 第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応: 新妻、中津、皆川、御厨、箕輪、齊藤  
 08~10: GeoVet2019 (米国: カリフォルニア州立大学・デービス校) 出席: 加藤  
 09: JICA「海外保安実務者のための救護・環境防災研修」(水鳥救護研修センター) 対応: 中津、皆川、箕輪、齊藤  
 14~15: 練馬西青色申告会 役員研修会 (ニューグリーンピア津南) 出席: 新妻、町田  
 19: コウノトリつがい 形成状況・調査 (茨城県神栖市) 対応: 箕輪  
 20: いきいきフェスタ (横浜市金沢区海の公園) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 23: わいわいサロン (県民活動サポートセンター) [神奈川支部] 対応: 皆川

=== 11月 ===

- 02~03: ジャパンバードフェスティバル (千葉県我孫子市) 対応: 箕輪、齊藤  
 03: 令和元年文化の日千葉県功労者表彰 (千葉県議会議場) 受賞: 金坂  
 03: 青葉区民まつり (青葉区獣医師会) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 06: かながわボランティア基金 21 幹事会 (県民活動サポートセンター) [神奈川支部] 出席: 皆川  
 07~08: 第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応: 新妻、中津、皆川、箕輪、齊藤  
 09: ふじさわ環境フェア (藤沢市民会館) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 10: 第176回麻布大学・麻門会 (麻布大学) 出席: 新妻  
 10: 森とせせらぎ祭り (大猫・野生動物救護センター特別公開) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 16: 丹沢フォーラム (丹沢山麓・秦野市) <丹沢自然保護協会> [神奈川支部] 対応: 皆川  
 16~17: 第40回動物臨床医学会年次大会 (グランキューブ大阪) 座長: 田向、箕輪、出席: 須田  
 17: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座 (講義) [神奈川支部] 対応: 皆川、金坂  
 19: 神奈川県自然保護功労者表彰 (神奈川県庁) 受賞: 皆川  
 20: 環境省水鳥救護研修センター・修復工事 対応: 齊藤  
 21: 埼玉県アライグマ対策セミナー (大宮ソニックシティ) 講師: 加藤、小山、出席: 箕輪  
 24: 長浜公園感謝 DAY (横浜市金沢区) [神奈川支部] 対応: 皆川  
 23~24: 認定 VMAT 講習会<災害動物医療研究会> (沖縄県) 講師: 羽山、皆川  
 23~30: 希少鳥類保全のための AI 及び鉛汚染サーベイランスに関する EU 視察 (ドイツ 他) 対応: 加藤  
 30: 第10回野生動物対策技術研究会 in 東京 (日本獣医生命科学大学) 出席: 羽山、皆川  
 30: 第30回・野学校 (小山台会館) 出席: 箕輪

=== 12月 ===

- 01: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座 (講義) [神奈川支部] 対応: 皆川、加藤、箕輪  
 10~14: カモ類捕獲調査 (宮城県・伊豆沼) 対応: 加藤  
 12: 愛鳥懇話会 (日比谷松本楼) 出席: 皆川、箕輪

.....  
**野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) [kyugo@wrvj.org](mailto:kyugo@wrvj.org)**

NEWS LETTER No. 111 2019.12.25 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302 TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 小松 泰史 編集担当: 箕輪多津男

.....